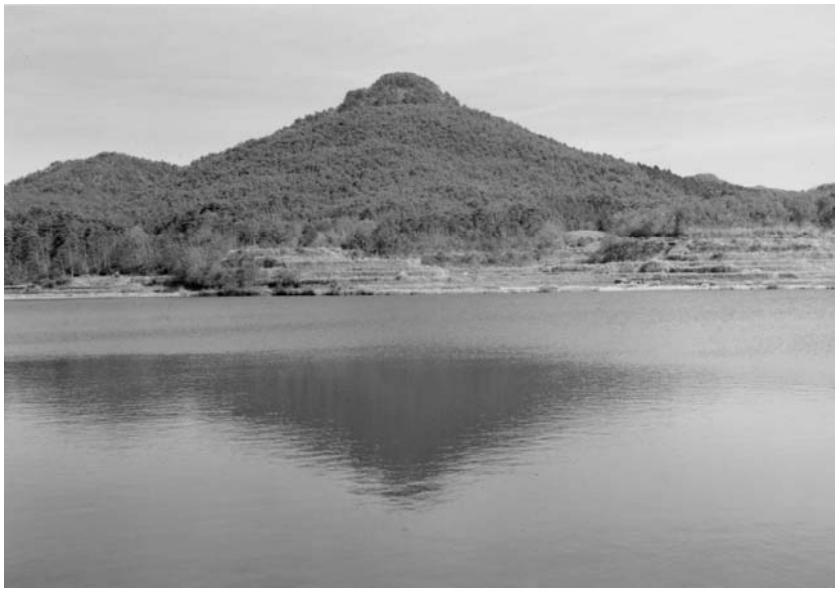
名のみの春

常永遠(とことわ)に雪も降り置かぬ富士の峰を　いかでさむたの山と云ふらん

（原文はひらがな）

これは天明元（１７８１）年に和歌山在住の国学者本居太平(もとおりたいへい)（宣長(のりなが)の養子）が、三田富士と題して詠んだ歌で、まったく雪化粧もしない富士の峰をなぜ寒田（三田）の山と呼ぶのだろう、という程の意味です。この歌からは太平が持っていた「富士」のイメージが、その形と頂上付近の冠雪からなりたっていたことがうかがわれます。ところが名勝有馬富士は「寒田」とあて字される三田の地にありながら、「常永遠(とことわ)に」とまで表現されるほどに降雪が少ない。その対比に太平は新鮮な驚きを感じたのでしょう。



有馬富士の冬景色(昭和40年頃)

市史第10巻地理編によると、神戸の市街地とくらべて、三田の気温は年間を通じて最高気温こそあまり変わりませんが、最低気温は3.5度以上低くなります。特に平均気温が最も低い１月では、その差は4.6度に達します(最高気温の差は1.0度)。この冬は予想に反して寒さが厳しいですが、記録が整理されている昭和31（1956）年以降の観測で最も低い気温は、昭和38年１月24日に記録されたー13.9度です。今季の最低気温はいまのところ昨年12月23日のー10.6度ですが、これは５番目の低さで、市街地での観測記録が整備されている昭和53（1978）年以降でみますと、最低記録を15年ぶりに更新しました。ちなみに市街地での最低気温の10位までの記録は２月が６回１月が３回で、12月に記録されたのは今季がはじめてです。

それに対して積雪日数は年平均で８日程度です。12月から翌年２月の期間でくらべると三田の降水量は豊岡市の１／４近くです。今季の三田はやはり12月２２日にかなりの積雪がありましたが、通常は三田の降水量は春にむかって徐々に増えるため、１月以降に積雪日が増えます。昭和30年代以降では43（1968）年２月16日の28cmが積雪の最深記録です（ただし市街地の観測では積雪量が記録されていませんので、厳密な検討ができません)。三田の降水量が豊岡を上回るのは平年ですと４月からです。気候からみた春はやはり３月のお彼岸以降ということになるようです。

総務課市史編さん担当